



【読書】キャラクター「おっほん」

札幌市立真駒内中学校

読書活動の取組

読書センターとしての機能

■図書局企画「本のタイトルしりとり」

図書局の企画で、学年別クラス対抗の「本のタイトルしりとり2025」が行われました。

朝学活や図書館だよりで参加を呼びかけ、各クラス6～10名参加し、お昼休みの時間を使い学年別に実施しています。

図書館ならではの“NDC分類の違う本を数多く集めるとポイントが加算される”ルールを追加したことで、参加者だけではなく応援した生徒も楽しみながら本の分類や並び方について学べるよう工夫いたしました。

使用した本は後日学級文庫としてクラスで読むことが出来るようにし、イベント後も読書の幅を広げる活動につながったと思います。

今後も生徒同士が交流しながら読書の輪を広げる機会を作っていきたいと思っています。

学習センターとしての機能

■1年国語科「根拠を明確にして書こう」

蔵書やレファレンスサービス、chromebookを使いインターネットから得た資料を引用し、レポートを書く学習を図書館にて実施しました。

生徒は普段なかなか気につけない書籍の「奥付け」情報を見ながらまとめることで、根拠を明確にして書くことの大切さを学びました。

■総合・職業・進路関連本コーナーの設置

11月のキャリア学習に合わせ、関連本が展示されました。

- 1年「職業・勤労」
- 2年「職業体験」
- 3年「進路・高校調べ」です。

講和・体験・授業後にも本を手にする生徒がおり、将来について興味が深まった様子が見られました。



情報センターとしての機能

■図書館以外でも本から学びを ～理科室前廊下を使った授業関連本設置～

図書館へ足を運ばずとも授業に関わる本を手に取り学びにつなげられるよう、進み具合に合わせ関連本が司書により展示されています。

廊下を通る先生も興味を持って本を手にする様子が見られました。

生徒の興味関心の広がりにつながることを期待しています。

■新聞から学びを

図書館入り口廊下に「北海道新聞」「読売中高生新聞」を掲示し、いつでも生徒が気軽に時事情報を収集出来るようにしています。

切り抜き掲示や、関連本、道新記事データベース（まなbell）についても発信しており、普段新聞になじみが薄くなっている生徒にも新鮮な情報として学びの活用の幅がさらに広がることを期待しています。